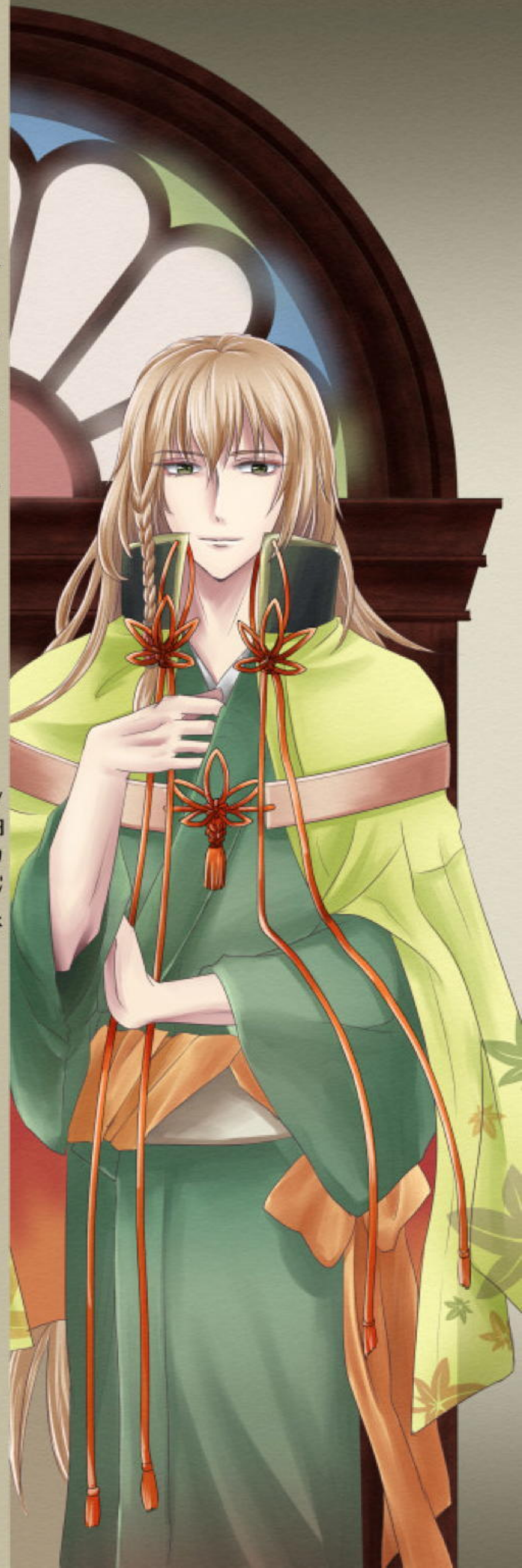




何^ナ
度^{ンド}
目^メ
か
の
正^{ショウ}
直^{ウジキ}



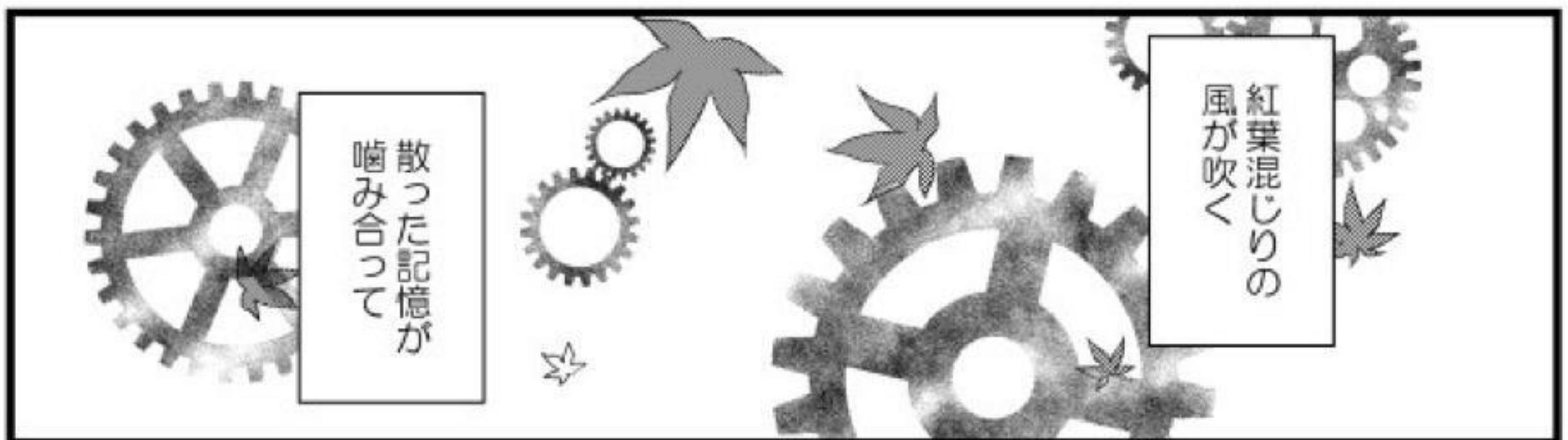
R18





尾崎紅葉だ

また
縁があったな



紅葉混じりの
風が吹く

散った記憶が
噛み合って



彼を励みに
生きていた

その後の長きに
気づかされ



威厳貫禄
余裕自信

風光明媚な
佇まい

全て纏った
艶姿

圧倒されて
魅了され

何度目かの正直

僕にとっては
とても久しいです…

紅葉先生







それができれば
苦勞しないんだけど



「尾崎紅葉読本」著・徳田秋聲
・尾崎紅葉没後、尾崎紅葉作品を研究し
評論・解説を記した書籍。





いつの時代もそうだろう

時代が変われば評価も変わる
評価と認知度は必ずしも比例しない



はいよ

紅葉ふかし
二つ 煮む



それに
愛読者は意外と
近くにもいるものだよ




紅葉先生の用事には
積極的についていった

あ……りがとうございます



持っていてやるから
先に食べなさい

ほれ
可愛らしい形だろう



僕は第一会派の一員として
紅葉先生とともに
主戦力の文豪とされた

やはり興味があつて
最も先生に近い作家でありたいと
思うようになったので
ちよつとよかった

一方で



やっぱり先生の話は
新聞の興味深い
コラムのような話から
何気ない独り言まで
楽しい

それを求めて
先生のところへ
やってくる人は多い

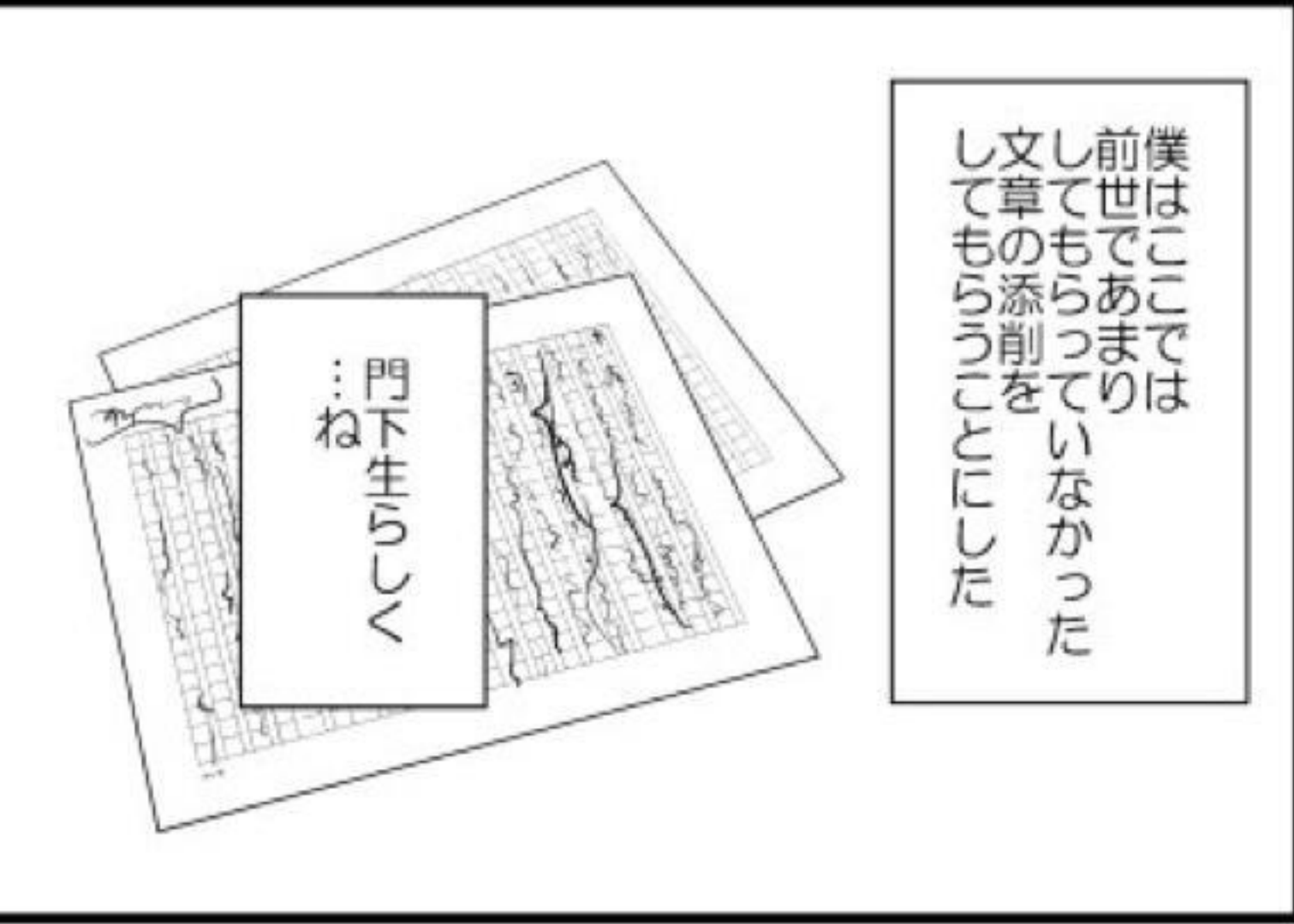
今も
そして昔も



先生は
たかさんの人に囲まれて
愛される姿が似合う

……

不思議だよ
みんな
門下生でもないのにね



僕はここでは
前世であまり
してなかった
文章の添削を
してもらった
ことにした

門下生ら
……ね



秋声 まさか
構って欲しいのか？

そんなんじゃないや
い
たぶん



でもまあ「じいじい」
独り占めするにじいじいまだ



添削は朱だったり
紙が貼ってあったりして
懐かしい

それをしてる様子を
そばで見ているのも
楽しかった



…なんだか

きれいに
転生したなあって



何だ
その目は

!



なるほど
近頃汝から向けられる
熱く湿った視線は
そのような欲によるものか

よっ欲とか
そういうことではなく







失礼します



さあ
入りなさい



泉鏡花にございます

その…貴方が…
紅葉先生…？



いかにも

まったく
待ちくたびれたぞ
寝坊助が



僕も
いますよ





こんな日が
来ればよいのにと
ずっと…望んで…

わっ

お会いできて
嬉しゅうございます！



ええ
わかります
この姿で一度
共に戦いましたから

鏡花
こちらは秋声だ
徳田秋声
わかるか？



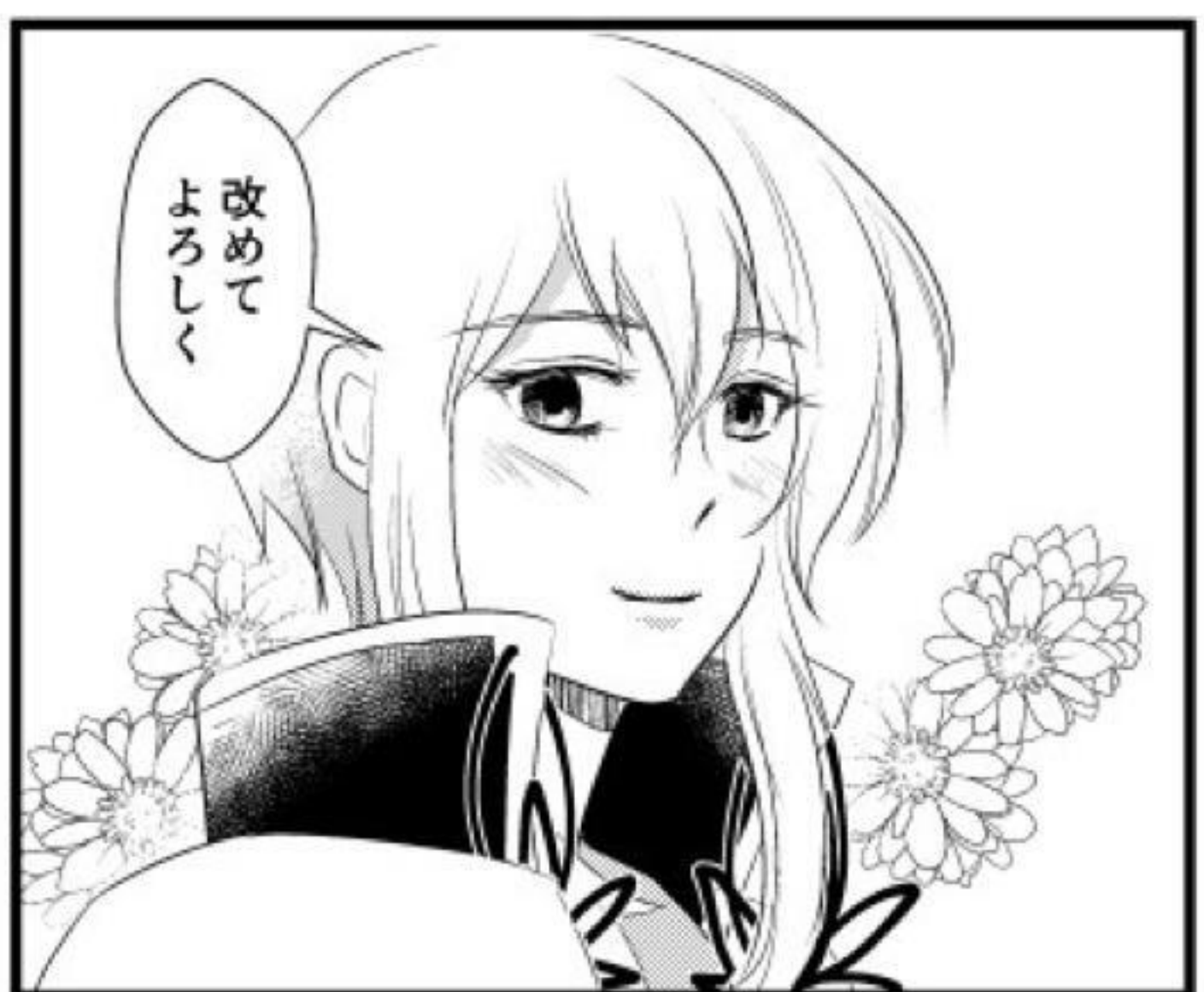
僕は初めて会ったとき
どんな行動を
とっていただろうか

こんな風に
素直に行動できたなら



どーも

…覚えてたんだね



改めて
よろしく

誰かが言っていた
その通りだと思う

紅葉先生は
『来るもの拒まず
去る者は追わず』
…そんな構えの人だと

多くの文豪たちの
手本となった存在だから
厳格な雰囲気の人かと思いきや

話し上手で
聞き上手
圧倒的な安心感

それでいて
好奇心は子供のよう
いつも決まって
言いだしっぺ



先生は無意識に
人を惹きつける
そして何者も拒まない

ならば
我を抱くか?
秋声

汝なら拒まんぞ?
…多分な

ねえ先生
もしかしてあなたは

申し入れがあれば
誰でも受け入れて
しまうのでしょうか

…あれ?

どうした?
精神『やや不安定』さん

ぬっ





冷・め・な・い・う・ち・に・



中園 睦実



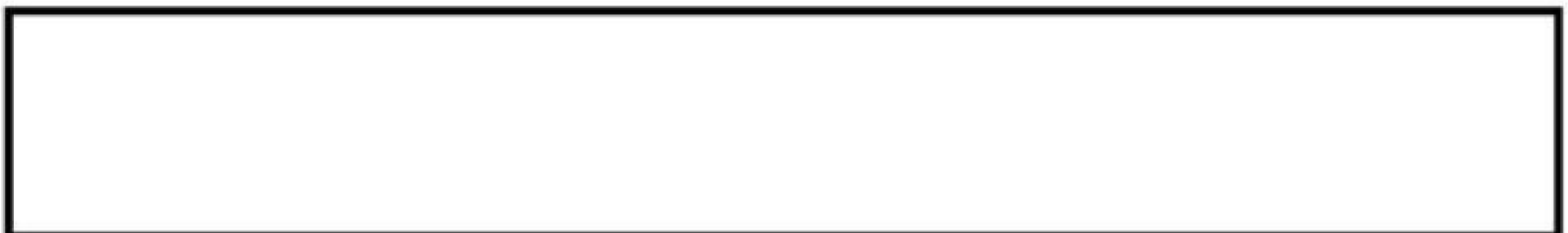
じゃあな

?



こしあん…

…ありがとう
い…ただよ



第一会派
帰ったぞ！



負の感情が強い…
浄化失敗か

補修の準備をせねば



見ての通り失敗だ！
紅葉のばあさんは
やられて一歩も
動けねえ！

頼む
持ってってくれ！

すっげえ
重いぞ



志賀お前
よく運べたな
紅葉くらいの体格になると
俺でギリギリ運べるか
否かくらいだぞ

ちょっと本気で
危険だと思ってるな
全力以上出した



秋声さん聞こえた？
あの露伴先生で
ギリギリだった

秋声さんが
抱っこして運べなくても
落ち込むことはないよ

……

やはり仕事は
和室でするに限るな

私の部屋は洋室だが



※当図書館での話







ありがとう

心強いと思える
弟子でよかった



でも今はどうやら
それだけじゃない



僕は確かに
あなたを超えたかった

認められたかった



やっぱり

僕は
貴方を抱きたい



何なのだ
秋声!





汝は
私の
身体と心

どちらが欲しいのだ！



カッ

タツ

逃げるな！





我に向かってくる者には
基本何でも応対する
しかし簡単には
受け入れたくないこともある

今後の活動や日常に
大いに影響するような

自身の内面に関わる
申し入れなんかは
わかるだろう



おいで
秋声

スッ



驚いたことに今
我は汝を
拒もうとは思わないのだ

先ほどは
身体が反射的に
抵抗してしまったがな

初めて会ったその日に
英語の雑誌の翻訳を
任されたことを思い出した



二兎を追うものは
最終的に
何兎を得られるか

秋声のやり方で
やってみなさい



不特定多数でなくて
僕に宛てられていることが
はつきりわかって
——嬉しかった



紅葉先生…

課題をもらえた
みたいで



そうやって
こんな僕でも
受け入れてくれる
包容力に

甘えていたかったんだと
思う





ほら…
寝転んで

赤子じゃないこと
してるんですけどね

まるで
母親に抱かれる
赤子だな



我は驚いているぞ
甘える様子など
少しも見せなかつた汝が…
最近は…どうだ

…赤子のように
甘えたい欲求を…
抑えているようで…

抑えられていない
…ことに

…気付いて…
いないようだな



新しく来た
鏡花や…

自然…
自然主義…の
あ、あやつら、に



え…
影響

…んっ

おっ



興奮してるんだから

少し黙ってて



うわ...っ
熱っ



ん



ハハ



紅葉先生…

…先生



手どけて…
声も…聞きたい…



ねえ顔が見たい…
見せて



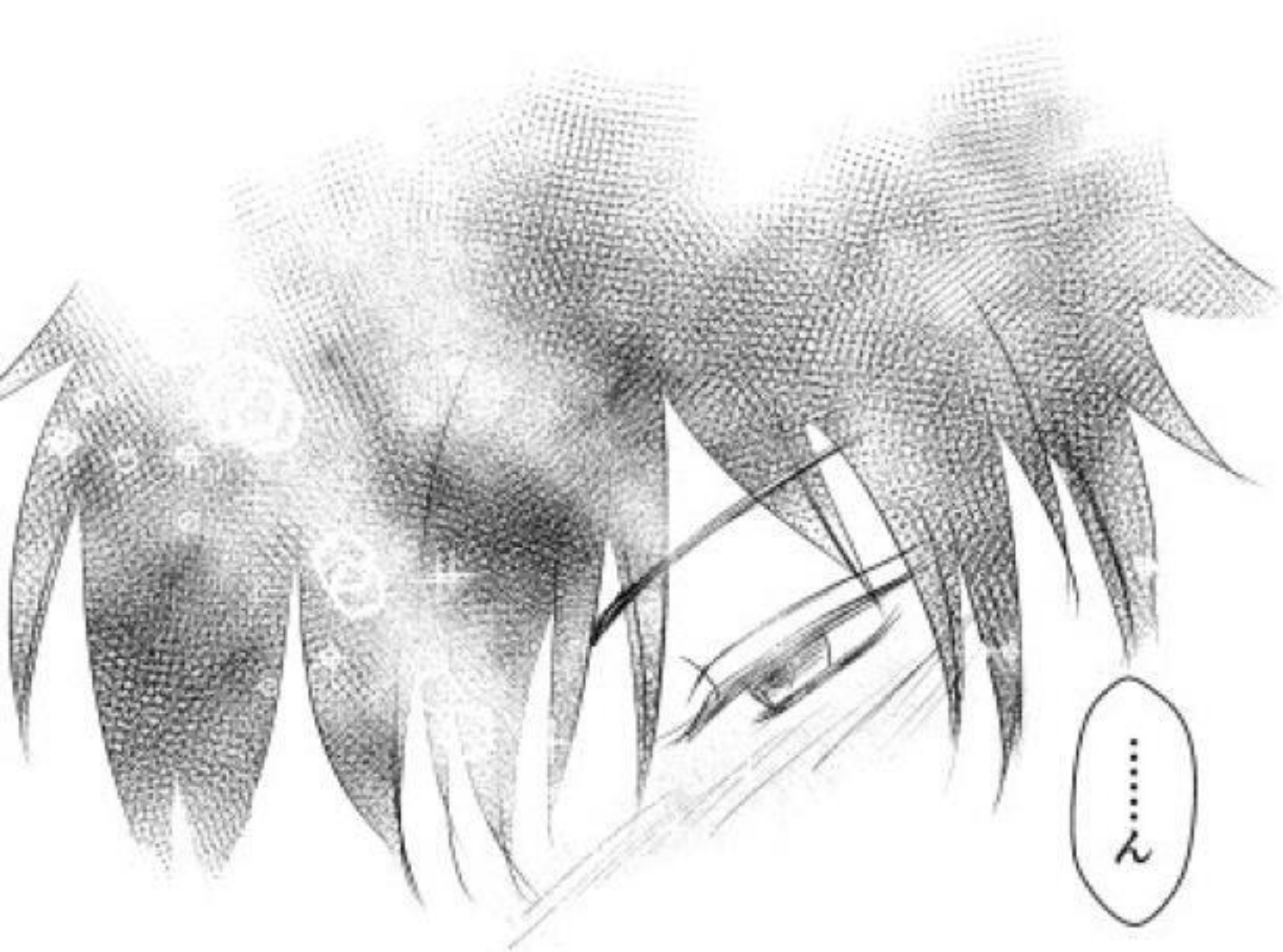
絶対ですよ

絶対ですからね

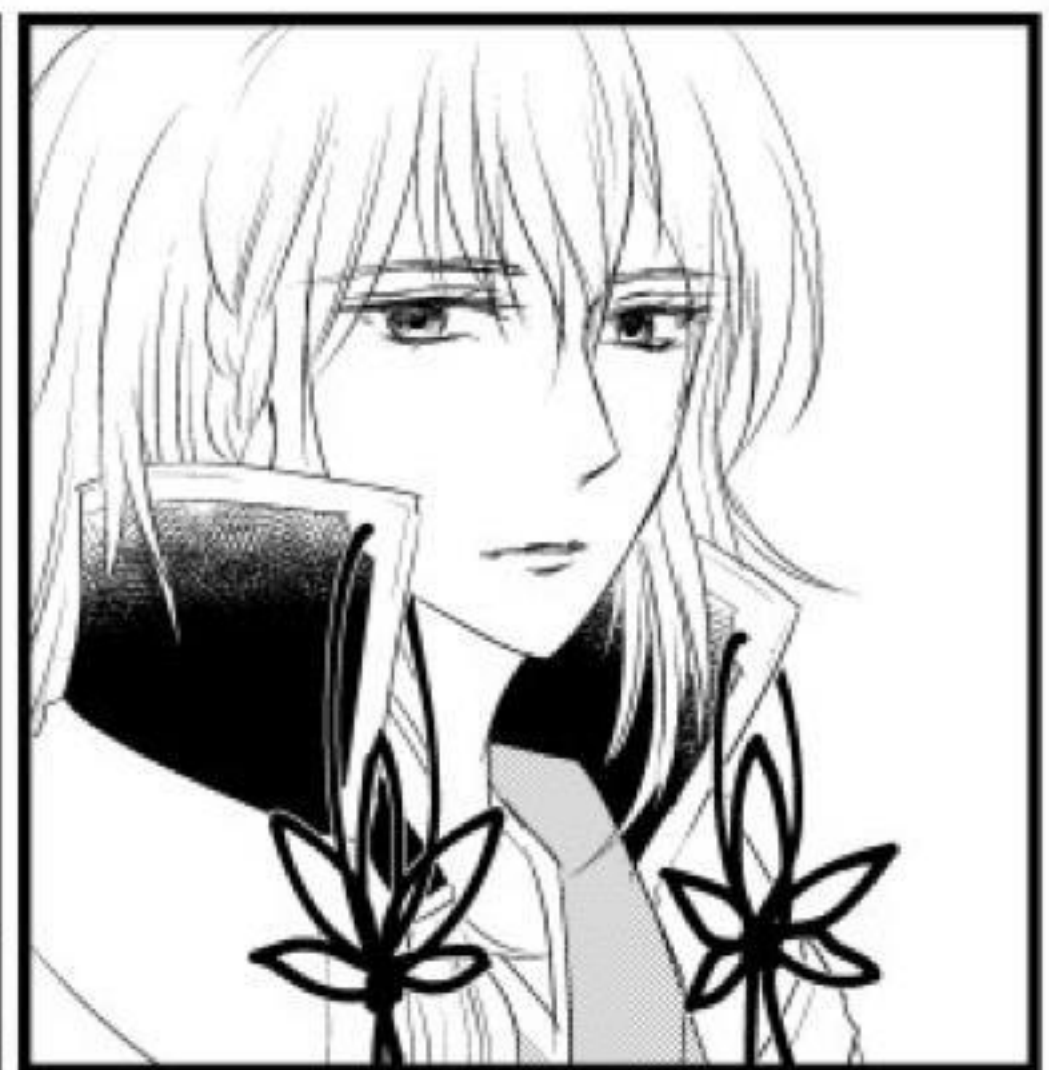


そう簡単に…
曝け出せる
ものでもない

おいおい
追々…な







紅葉先生
ここにきて僕はあなたに
すっかり心を
奪われてしまいました

あなたと共にある時間を
増やすため
あなたの喜ぶ顔を見るため

あなたに……
可愛がってもらうため

それだけのために
数多の行動を
とってしまいました

どうか
許してください



め
迷惑だったら
いつでも
言ってください

努力しますから

……要求が幾分
自分勝手になったな？

まあ文章化した甲斐あってかな
歯の浮くような言葉も
よく滑らかに言えたと思うぞ

えっ



なっ
なんで知ってるんですか
書き出してたこと

情報が集まる奴と
仲良くしていると
いろいろと得られるものが
あるから

しかし秋声
我にどうして欲しいかの
申し入れはないのか



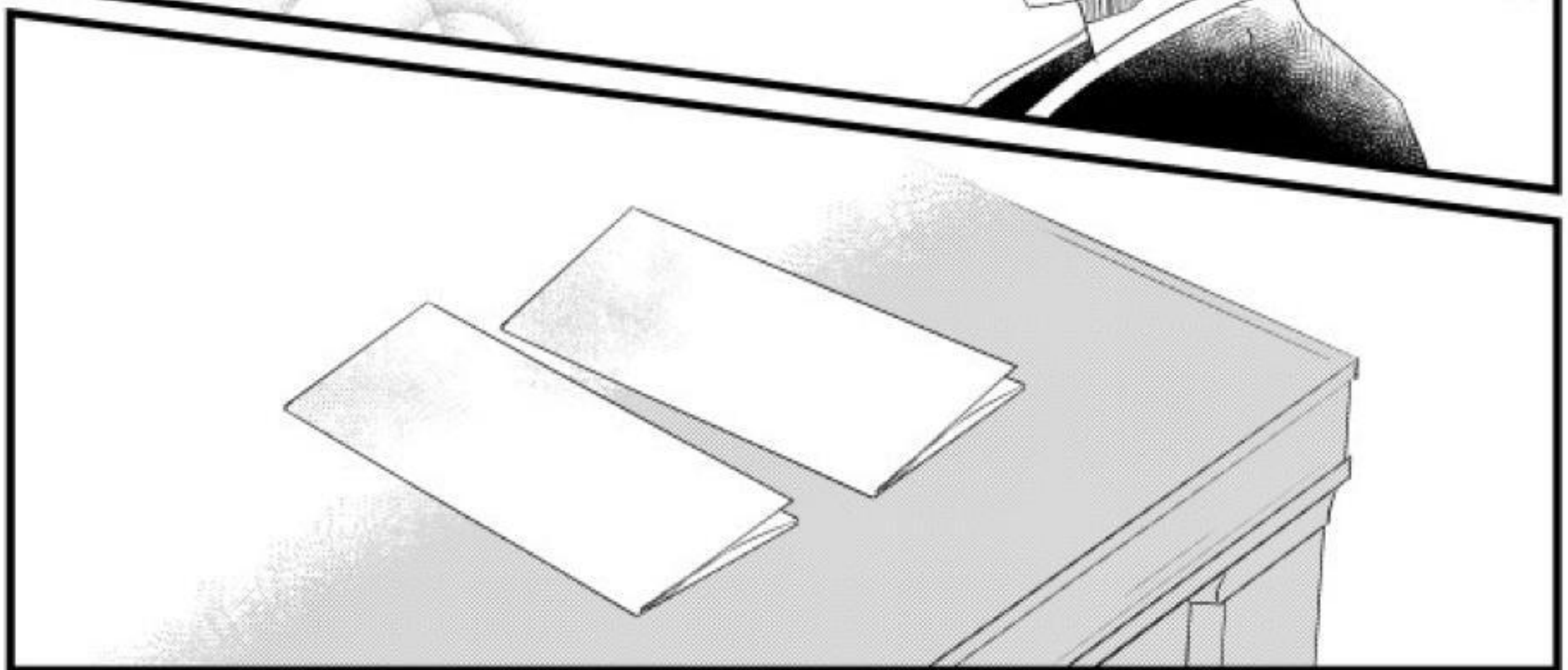
はあ…
汝が片思いである以上
我も片思いだ

我はあらかじめ
返答を
用意していたのだぞ？

…ずっと片思いで
その続きなんて
考えてなかったから



さあ
秋声よ



彼には多くの門下生がいた
中でも特に優れた成果を出し
密に交流を重ねた四人は
門下四天王と呼ばれた

その中で一人
他の三人と比べ師と距離を置き
目立たずとも
地道に学ぶ者がいたという



…だけど
今度は

イベント終わってから別紙であとがきを書くという
大変悔しい事態になりました。
あとがきは前々から書いておこうと誓いました。

このたびはお読みくださりまことにありがとうございました。
文アル本2冊目は初めてのCP本にチャレンジしました。
2人の双筆神髓セリフ「さあ、秋声のやりかたで、やってみなさい」
「それができれば苦労しないんですけどね」を聞いて
あっ…師弟…最高では…？といとも簡単に落ちてしまったCPです。

紅葉先生は歴史的にもとても大きな存在で、
文アルでも師匠として・年長者としての偉大さが大きな魅力のひとつだと思います。
(幼女みみたいな、好奇心旺盛なこーよー先生も大好きです)
ゆえに彼はいろいろな出来事を「受け入れる」方の存在であったらいいなと思いました。
特にあとに生まれて活躍した文豪たちに対しては、何かを積極的に仕掛けるよりも、
お前たち何でもどんと来い、全て受け止めてやるから、といったスタンスだといいなと。


一方の秋声は、文アルでは紅葉先生のことを「越えなければならない壁」と表現していました。
鏡花のことだってライバル視しているのに(私の妄想ですが)、その鏡花が病的に尊敬する
紅葉先生など、到底越えられる気がしないと思っていたらどうしよう。
その到底超えられない偉大さと、何でも受け入れてくれる無限の包容力によって
秋声は紅葉先生のことですらいつも胸がいっぱいになっていたらどうしよう！
……それって憧れからの恋心じゃない？という妄想が捗りました。
半端じゃなく美人ですしね！美しい雄。なんじゃあの下まつげ。けしからん。

初めて先生に会ったとき、先生は立て膝で扇子を仰ぎながら話をしてくれたこと、
その日のうちに英語の雑誌の翻訳を依頼されてちゃんとお金をもらったこと、
先生が添削した秋声の作品は意外と少ないこと、
先生の添削は書き込みで紙が真っ赤になっていたり上に紙を貼りまくったりして
それはそれは激しいものだったこと、
…というネタを随筆から仕入れ、この本に取り込んでみています。

そんな2人のCPで、
ベタ惚れでいっぱい秋声(→→→→→)←余裕がなくなってくる紅葉先生
を表現しようと努力しました。
秋声くんもそうですが、紅葉先生だって人間(の転生体)なもの、
言われて・されて嬉しいことくらいありますよ、求められたら嬉しいですよ…！
最後の問いへの答えは、この本の後半のどこかにあるセリフと同じだと思っています…
あと生まれて初めて人前にえっちな絵を出しました。照れてます。

長くなりましたが、お読みくださりましてありがとうございました！
今後の予定としましては、11月のイベントに出展しようか迷っているところです。
……睡姦本とか描いてみたいです。頑張れこーよー先生。相手は若いし絶倫だ。笑

それではまた！
2018年6月 なるかみ @k_nrkm



文豪とアルケミスト
非公式ファンブック
2018/6/17 INTERMEZZO